



とよなかの環境

2024年度 速報版

令和7年(2025年)
10月31日更新!
審議会評価
市の考え方
追加しました!

豊中市では「第3次豊中市環境基本計画(改定)」に基づいて環境施策を進めています。
「とよなかの環境・速報版」(豊中市環境報告書)では令和6年度(2024年度)の活動実績を
ふまえて、環境目標に対する取組みの進ちょく状況の速報結果等を公表しています。

市民のみなさんからのご意見、ご提案を受けて、
今後の施策の展開・事業の見直しを行います。

環境目標

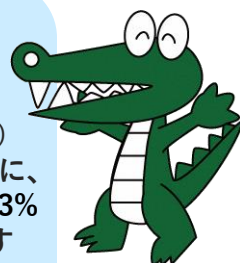
目標1

よりよい環境をめざして多様な主体のパートナーシップで
取り組む



目標2

1人あたり
温室効果ガス排出量(t-CO₂)
を令和9年度(2027年度)までに、
平成2年度(1990年度)比38.3%
削減し、脱炭素社会をめざす



目標3

発生抑制・再使用と質の高い
リサイクルの推進により、
ごみの焼却処理量を
令和9年度(2027年度)までに
平成28年度(2016年度)比
8%削減し、循環型社会の
構築をめざす



目標4

みどり率27%で
心豊かな豊中らしい
まちをめざす



目標5

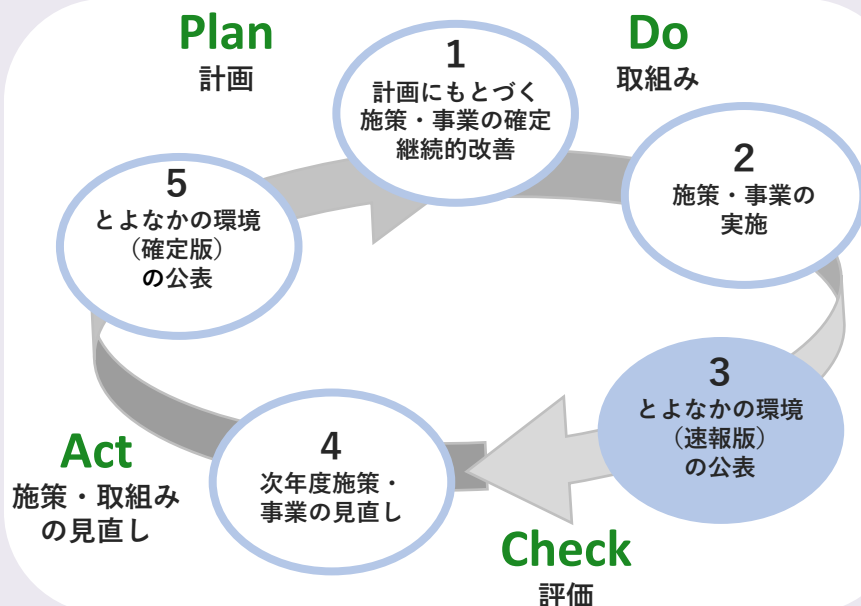
環境基準の達成状況100%で
快適な都市環境をめざす



計画の進め方

計画の推進を着実に図るために、
PDCAサイクルによって毎年度、
活動を評価し、進行管理を行って
います。

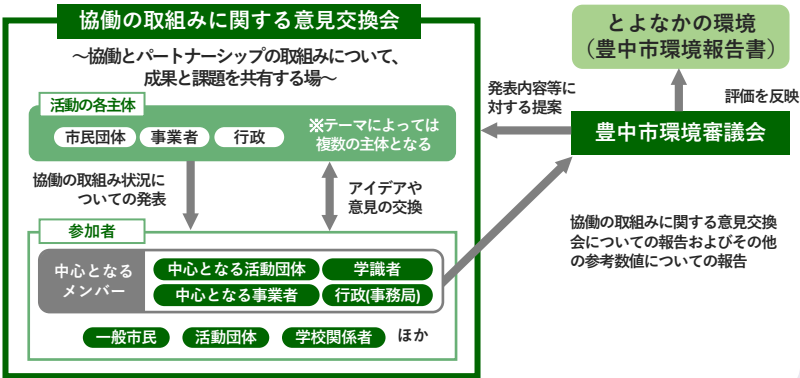
環境審議会と市民のみなさんから
のご意見やご提案をもとに施
策・事業を見直し、改善を図りな
がら、目標の実現をめざして取り
組んでいきます。



2024年度 環境目標に対する進ちょく状況の見方

目標1

協働とパートナーシップの取組みに対する評価のプロセス



協働とパートナーシップの進行管理

多様な主体のパートナーシップの取組み成果や課題を共有する「協働の取組みに関する意見交換会」を毎年開催しています。

進ちょく評価

速報版では、「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」をテーマに実施した「協働の取組みに関する意見交換会」の開催結果について紹介しています。

目標2～5

環境目標

各環境分野ごとに環境目標を設定しています。

市の取組み

市の主な取組み内容を紹介しています。

指標の進ちょく状況

代表指標は目標達成に最も影響を与えるものです。その他の指標は、代表指標を補完するものまたは影響を与えるものです。

豊中市の人口と
比べながら、
成果を見てみよう



豊中市の推計人口

2024年4月1日現在	398,087人
2025年4月1日現在	397,521人



評価の判断基準

環境基本計画の進行管理として、目標2・4は、代表指標に目安線をひいています。目安線と数値の関係や前年度との比較でA～Dをつけています。

目標3は、第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画の年度目標値と数値を比較して評価をつけています。

- A 今年度の目標を達成しました
目標達成のめやす以下かつ前回値以下
- B 今年度の目標を達成しましたが、さらに努力が必要です
目標達成のめやす以下かつ前回値より大きい
- C 改善の傾向にありますが、更なる努力が必要です
目標達成のめやすより大きく、前回値以下
- D 改善の傾向にありません
目標達成のめやすより大きく、前回値より大きい

備考：目標4は以上を以下、以下を以上に読み替える。

目標5は、すべての環境基準を達成した場合「A」、達成していない場合「D」をつけています。

要因分析

環境目標の進ちょく状況について、「どうしてこのような結果になったのか」要因分析をしています。

ご意見やご提案をお聞かせください

右の二次元バーコードから、「とよなかの環境・速報版」を読んで疑問点や各施策に関する要望、これから取り組むべきことなどにご意見やご提案をお寄せください。

令和8年(2026年)3月発行の年次報告書等で紹介いたします。

豊中市HP



目標 1

よりよい環境をめざして
多様な主体のパートナーシップで
取り組む



2024年度 of 取り組み

環境交流センター

環境交流センターを起点に、地球環境保全等に関する活動のための交流の場の提供、情報の収集及び提供、講座の開催及び啓発などを実施



事業者等との連携

ペットボトルリサイクル協定

使用済みペットボトルの一部を新たなペットボトルにリサイクルするBtoB（ボトルtoボトル）に関する協定を締結



SAFに関する連携協定

廃食油を原料としたSAF（持続可能な航空機燃料）の製造推進に関する協定を航空会社と締結



協働の進ちょく状況

「協働の取り組みに関する意見交換会」のテーマ

「使用済み子ども服を活用した資源循環の取り組み」

豊中市における「使用済み子ども服を活用した資源循環の取り組み」関係図

令和4年度意見交換会で子ども服リユースの実証実験結果について発表



発展

取り組み事例1 子ども服リユース



協働団体・連携部局の増加などにより
回収量・配布数が増加

取り組み事例2 おゆずりぐるり

※R6時点 取り組み
(環境省モデル事業として実施)

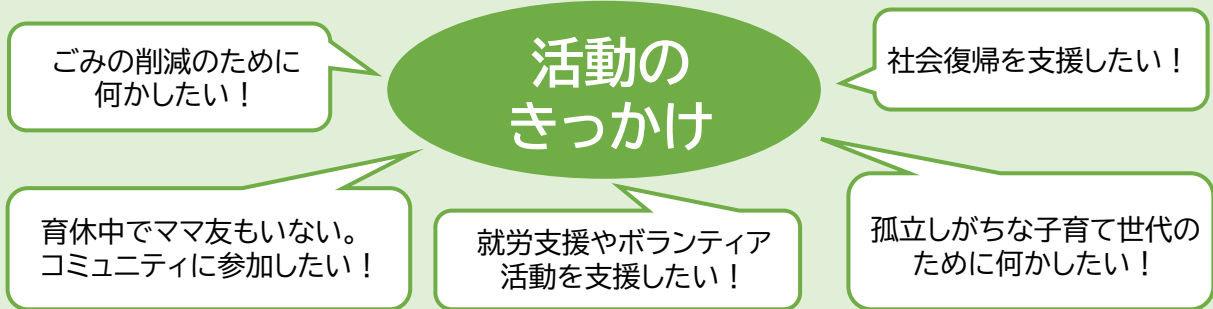


子ども服リユースの仕組みの
構築を実現

開催結果【テーマ「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」】

特徴・成果

①複数の分野・主体による協働の推進



行政の関係部局に加え、子育て支援団体や就労支援団体、事業者や中間支援団体など、様々な立場の団体・主体が様々な活動のきっかけを経て協働に参加している。

②協働のための「仕組み」構築

複数の分野・主体が参加し、子ども服の回収から管理、配布までを含んだ子ども服リユースのしくみ「おゆずりぐるり」を構築している。



協働の広がりが、事業の広がりに繋がり、様々なきっかけにより、人と人とが交流し、新たなコミュニティが形成されている

今後の展望・活動のヒント

活動者拡大に向けたアイデア

- ・活動者の世代を広げていく工夫がいると思う。
- ・活動したいと思った人が情報をキャッチできるようにしたい。
- ・学生がやりたい企画と子ども服リユースを組み合わせると新しい取組みをつくれると良い。
- ・ボランティアポイントなど、活動者のモチベーションアップの仕組みが欲しい。
- ・来場者にリユース服のハンガー掛けなどの作業協力をお願いするなど、来場者にも参加してもらえるような取組みができると良い。

意見交換会では、取組み発展のためのアイデアがたくさんでした。



利用者拡大に向けたアイデア

- ・SNSを使うなど、効果的な情報の魅せ方が大切だと思う。
- ・子育て世代みんなが情報をキャッチできる工夫が必要である。
- ・環境問題やごみの減量が、堅苦しく考えずに楽しい活動として捉えられるような工夫がいると思う。

持続可能な取組み推進に向けたアイデア

- ・皆が幸福感や満足感を感じられる取組みにしたい。
- ・配送コストや環境への配慮の観点から、回収拠点と配布場所は近い方が良い。

あなたも「おゆずりぐるり」に参加しませんか？

子ども服リユースの取組みは、市内の各所やイベントで実施されています。常設拠点やイベント開催予定など、公式SNSで紹介しています。



公式SNS (Instagram)
はこちら



環境審議会評価

- ・今年度の意見交換会「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」について、子ども服をうまく資源循環させる仕組みの構築に加えて、子育てに悩む保護者同士のコミュニティの場にしたなど、多様な主体が様々な思いで活動に参加していることから協働による取組みが広がっています。また、「子育てしやすさNo.1」を掲げている豊中の施策の一つとしてPRするなど、今後の取組み推進を期待します。
- ・協働とパートナーシップの進行管理について、定量評価(数値による評価)が難しい分野であるため、協働の取組みに関する意見交換会の結果を踏まえた定性評価(数値では表せないものに対する評価)を行っているが、今回の意見交換会で共有された取組みの成果や課題、アイデアなどを分析するとともに、今後も意見交換会での事例を他事例に活かしていくための工夫が必要と考えます。

市の考え方

- ・今回の意見交換会では、「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」が中間支援団体の参画やボランティア登録制度などにより、子育て支援団体や就労支援団体を巻き込んだ取組みに広がっていることが成果としてあげられました。
今後も、「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」について、資源の有効利用及びごみの発生抑制に加えて、子育て世帯の支援につなげるため取組みを推進していきます。
- ・今回の意見交換会を受けて、現状の仕組みにとらわれず、時代に合った柔軟な考え方を取り入れること、また、活動のきっかけは多様であるため、様々な視点で仲間を拡げることは、取組みの拡大・継続につながっていることが再確認できました。
今後も、多様な主体による協働の取組みを推進するため、多角的な視点から取組みを拡げ、進めていきます。
- ・多様な主体のパートナーシップによる取組みは非常に重要であるため、環境政策を推進するための協働のしくみづくりとして、柔軟で効果的な方策を次期計画策定に向けて検討していきます。

目標
2

1人あたり温室効果ガス排出量（t-CO₂）を
令和9年度（2027年度）までに、
平成2年度（1990年度）比38.3%削減し、
脱炭素社会をめざす



2024年度 of 取組み

事業者向け
脱炭素経営セミナー

市内の中小事業者を対象に、脱炭素経営を進める必要性等について脱炭素経営セミナーを開催



電気自動車普及啓発

電気自動車等購入
補助金対象者を拡大

事業者向け電気自動車等購入支援補助金の対象を市民へ拡大

市有施設に
EV充電器を設置

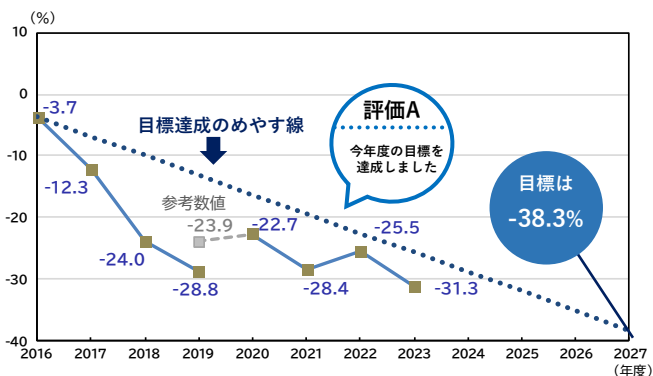
電気自動車の利用環境を整備するとともに、普及促進につなげるため、新たに市有施設2か所にEV充電器を設置



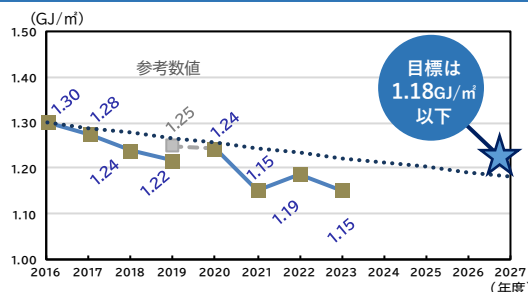
指標の進ちょく状況

代表
指標

市民1人あたり温室効果ガス排出量(t-CO₂/人)
平成2年度(1990年度)比 (%)



業務部門の床面積1㎡あたりの
エネルギー消費量 (GJ/㎡)



※ 2020年度以降、市域の部門別消費電力量のデータの出典が変更となったことから、2019年度以前の推計値と非連続になっています。そのため、2019年度から2020年度の全国的な消費電力量変化が豊中市においても生じたと想定して参考数値を算出しています。

指標		目標	前回値 2022年度	直近値 2023年度
部門別温室効果ガス排出量 (t-CO ₂) 平成2年度(1990 年度)比 (%)	産業部門	-66.0	-64.0	-66.6
	家庭部門	-32.0	+1.5	-9.0
	業務部門	-11.0	-9.7	-17.8
	運輸部門	-46.0	-32.1	-32.5
	廃棄物部門	-33.0	-4.6	-14.3

指標	目標	前回値 2022年度	直近値 2023年度
家庭部門市民1人あたりエネルギー消費量 (GJ/人)	減少	13.6	13.1
再生可能エネルギー等設備導入量(kW)	増加	28,772	30,797
市民1人あたりの自家用車の登録台数(台/人)	減少	0.248	0.248
市内に登録された自動車1台あたりの 温室効果ガス排出量(t-CO ₂ /台)	減少	1.39	1.39
市内に登録された自家用乗用車のうち 電気自動車等の割合(%)	増加	26.9	29.7

進ちょく状況に対する要因分析

市民1人あたりの温室効果ガス排出量は、目標達成のめやす線を下回っており、順調に減少しています。

温室効果ガス排出量の減少には、電力の排出係数が前年度より低減した影響が大きいと考えられますが、エネルギー消費量はすべての部門で減少していることから、各部門において省エネ化が進んでいると考えられます。



環境審議会評価

- ・代表指標である「市民1人あたり温室効果ガス排出量」は順調に減少しており、市民・事業者のエネルギー消費量削減の取組みの成果が一定表れていると評価ができます。また、再生可能エネルギー等設備導入量も増加していますが、豊中市は市街地であるため大規模な設備導入は難しいと考えられることから、長期的にみると設備の導入量の増加は鈍化していくことが想定されます。また、温室効果ガス排出量の減少は、市の取組みの影響を受けにくい電力の排出係数の低減も一因であり、市の取組みの効果を測りにくくなっています。
- ・今後は、自然を活用した解決策(NbS:Nature-based Solutions)や環境価値(CO₂削減等に資する価値)などの活用による温室効果ガスの削減や「ペロブスカイト太陽電池」などの新技術の活用、また市内の再エネ電力導入状況や省エネ対策を実施している建物の普及率等の新たな指標を設定するなどの市の取組み効果を適切に評価できる仕組みを検討する必要があります。

市の考え方

- ・建物の耐震性等の課題により、これまで太陽光発電設備の設置ができなかった施設に新技術を活用した設備の導入を検討するなど、市が率先して新たな知見を取り入れながら脱炭素につながる取組みを進めることで、市民・事業者の省エネ行動や再エネ導入などにつなげていきます。
- ・市では、自然資源を活用した取組みとして、豊富な森林資源を有する能勢町、島根県隠岐の島町、兵庫県宍粟市などと連携協定を締結し、森林整備等によるカーボン・オフセット事業や市有施設における木材利用を進めており、引き続き、自然資源や環境価値のさらなる活用を検討いたします。
- ・現行の「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画(改定)～とよなか・ゼロカーボンプラン～」は令和9年度(2027年度)に計画の最終年度を迎えることから、社会情勢等もふまえながら目標の見直しを行うとともに、市域の状況を適切に把握するために新たな指標を設定するなど、2050年ゼロカーボン達成に向け次期計画の内容を検討していきます。

目標 3

発生抑制・再使用と質の高いリサイクルの推進により、ごみの焼却処理量を令和9年度（2027年度）までに平成28年度（2016年度）比8%削減し、循環型社会の構築をめざす



2024年度の取組み

豊中エコショップ制度のイベント開催

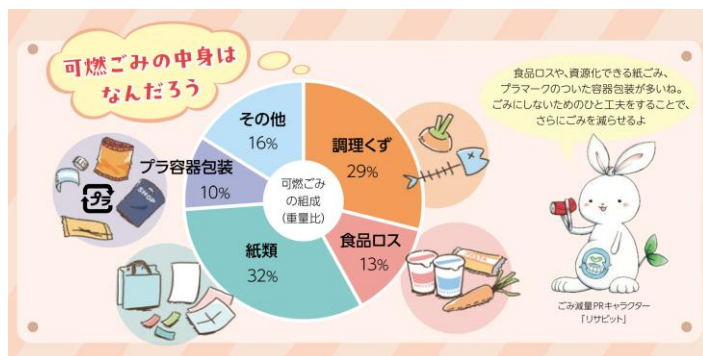
豊中エコショップ制度の周知啓発を目的に、「エコdeさんあい 豊中エコショップ+第13回さんあいイベント」を開催



子どもを中心に広く募集した環境に関する写真や絵画等をラッピングしたごみ収集車のお披露目を併せて実施

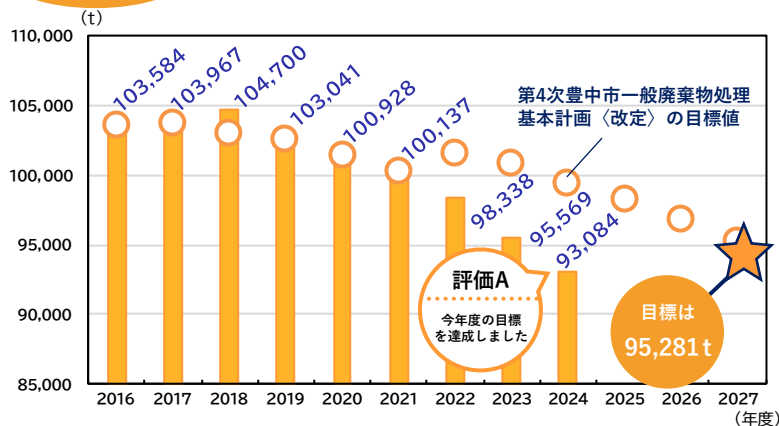
家庭系ごみ排出実態調査の実施

市民のごみ分別意識や排出状況を把握し、市の次期計画に反映させるため、家庭系ごみ排出実態調査を実施

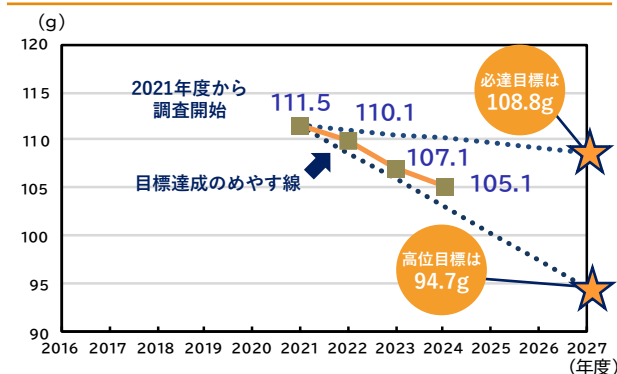


指標の進ちょく状況

代表指標 焼却処理量（t）



食品ロス1人1日あたり量（g）



指標	目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
家庭系ごみ1人1日あたり排出量(g) (再生資源は除く)	394	387	379
事業系ごみ排出量(t) (再生資源は除く)	36,601	37,634	36,711



進ちょく状況に対する要因分析

ごみの焼却処理量は、引き続き減少しており、令和9年度（2027年度）までの目標値を達成しています。

家庭系・事業系共にごみの排出量が減少するとともに、リサイクル率が微増しています。

物価高騰による個人消費抑制に伴うごみの発生抑制や、ごみの適正処理の意識の浸透などの影響が考えられます。





環境審議会評価

- ・代表指標である「焼却処理量」については目標値を達成しており、順調に進んでいます。これは、物価の高騰による消費抑制という要因だけでなく、市民の環境意識の向上やこれまでのごみ減量施策によるものであると考えられます。
- ・引き続き、家庭系・事業系のごみの減量に向け、社会情勢がどのように変化しても継続してごみを減らす、再資源化を促進する取組みを推進するとともに、「食品ロス」の削減に向けた取組みを推進していくことが必要です。

市の考え方

- ・物価高騰による消費抑制の影響もありますが、社会全体においてごみの分別やリサイクルなどの環境意識については定着しつつあり、市民・事業者・行政が一体となっておみ減量に向けた取組みを継続していることにより、順調にごみ減量していると考えます。
今後も社会情勢によるごみの排出量への影響を注視しながら、発生抑制を第一とし、どうしても出てしまうごみや不用品についてはリユースやリサイクルの取組みを継続して推進します。
- ・食品ロス対策については、ごみ減量はもとより、食べ物を無駄にしない意識を持ち、自発的な食品ロス削減行動へとつなぐ普及啓発の実施、また、生産から消費までを全体の流れとして捉え、市民、事業者、関係団体等の多様な主体と連携した取組みについて継続して実施します。

目標
4みどり率27%で心豊かな豊中らしい
まちをめざす

2024年度の取組み



とよなか花いっぱい大作戦



花いっぱい運動を拡充した「とよなか花いっぱい大作戦」を開始。花いっぱいのまちづくりをめざし、住民・事業者からサポーターとスポンサーを募集。

グリーンインフラによるまちづくり基本方針

多面的に機能するようみどりの「質」を高めるとともに、憩いの場の創出や賑わい空間の形成などにより、様々な人が集えるよう公園みどりを展開していくことを目的に策定。



緑化樹配布

マンションや企業、学校、こども園などへ、キンモクセイやレッドロビンなどの樹木を配布し市内の緑化を推進

(過去5年間で約12,000本配布)



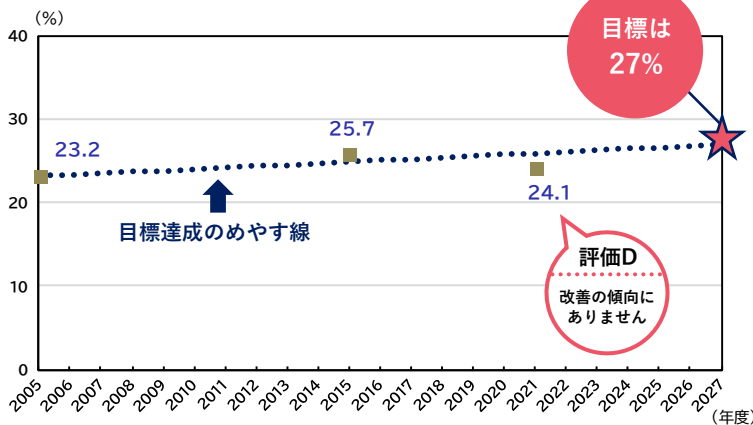
生物多様性の啓発



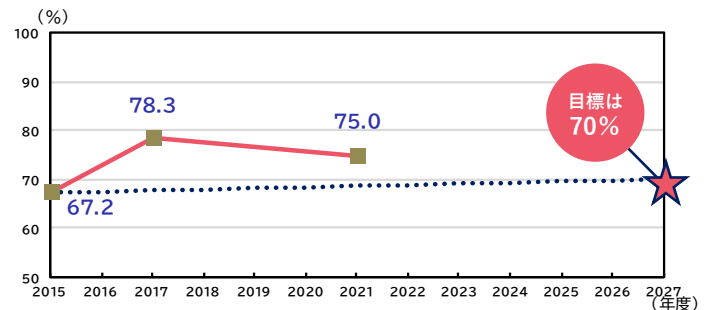
ふれあい緑地のビオトープを活用した生きものの観察や生きものを呼び込むための市民とのフィールド整備など、まちなかの公園で体験できる生物多様性について啓発

指標の進ちょく状況

代表指標 みどり率 (%)



みどりに対する満足度 (%)



指標	目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
緑被率(%)	15.7	—	—
市民1人あたりの公園・緑地面積(㎡/人)	7.17	7.12	7.12
みどりに関するイベント参加者数(人)(累計)	累計 150,000	64,644	79,006

指標	目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
市民参加による生物調査の参加者数(人)	増加	31	53
生物多様性の認知度(%) (「言葉の意味を知っていた」の回答比率)	増加	—	—
景観に関する項目が盛り込まれている地区計画・協定等の数(件)	増加	49	48

進ちょく状況に対する要因分析

みどり率は、開発行為や自然災害の影響による樹林・樹木の減少、草地・芝地・屋上緑化の増加や樹木の生育状況を総合して、減少傾向となっています。

みどりについては、市民参加や環境配慮を重視し、効果的な施策の改善と持続的な取組みが必要です。

みどりに関する指標の用語説明

第2次豊中市みどりの基本計画では、以下のとおり定義しています。

- ◆ みどり：樹林・樹木、草地・芝地、農地、水面、屋上緑化、これらと一体となったオープンスペースなどの緑地のこと。
- ◆ みどり率：樹林・樹木、草地・芝地、農地、水面、屋上緑化が市域に占める割合
- ◆ 緑被率：樹林・樹木の面積が市域に占める割合



環境審議会評価

- ・代表指標である「みどり率」については、計画で掲げる目標達成に向けて、「自然環境の保全」、「生物多様性の保全」等の視点からも引き続き取り組む必要があります。また、緑地は主観的な満足だけではなく、都市構造への影響等さまざまな効果があると考えられることから、令和8年度(2026年度)に実施する調査では、それらも考慮した多角的な視点での評価を取り入れていくことを期待します。
- ・「みどりの満足度」については高い水準を維持しており、「とよなか花いっぱい大作戦」等みどりと触れ合うような機会を積極的に設ける施策を推進していることは評価できます。また、生活が豊かになることをめざして、みどりの質を高める「グリーンインフラによるまちづくり基本方針」を策定しており、複合的な観点から豊中らしいまちの実現を期待します。

市の考え方

- ・代表指標である「みどり率」等を令和8年度(2026年度)に調査し、これまで実施した施策の効果や自然災害などの影響を把握する予定です。調査結果や社会情勢等を踏まえて、目標達成に向けた努力とともに、自然環境や生物多様性の保全の視点も取り入れた効果的な施策の進め方や多角的な評価のあり方について検討していきます。
- ・「みどりの満足度」については、令和6年度(2024年度)に策定した「グリーンインフラによるまちづくり基本方針」で既存のみどりが持つ多面的な機能により、憩いの場の創出や賑わい空間の形成を進め、みどりの質を高める考え方を示しました。今後、「とよなか花いっぱい大作戦」、「とよなか公園魅力アップツリー事業」、「3軒からのご近所緑化支援制度」「緑化樹配付」など、市民や事業者と共に新たなみどりの創出やみどりが持つ様々な価値を高めながら、みどりの量に加え、質の向上もめざします。

環境基準の達成状況100%で快適な都市環境をめざす



2024年度の取組み

民間施設をクールスポットに指定

市有施設に加えて、新たに民間施設3か所を、熱中症対策として一時的に暑さから逃れ休憩できる「クールスポット」に指定



緑化計画の協議

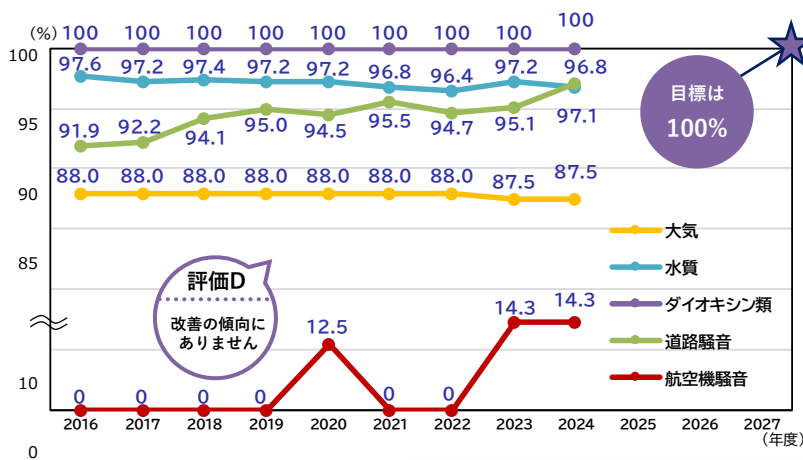
開発行為において、壁面緑化や屋上緑化など多様な緑化計画を協議



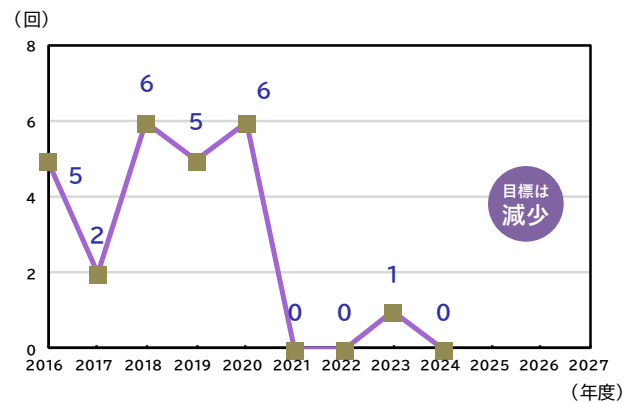
豊中市伊丹市クリーンランドHP

指標の進ちょく状況

代表指標 環境基準達成状況 (%)



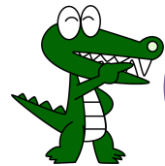
大気に関する注意喚起回数 (回) (光化学スモッグ予報・注意報、PM2.5 (微小粒子状物質))



指標		目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
雨水排水整備率 (%)		増加	82.1	82.2
環境配慮のうち 雨水利用に 関するもの (累計)	雨水利用の 件数(件)	増加	11	11
	雨水利用の 容量(L)	増加	202,530	202,530

進ちょく状況に対する要因分析

大気、水質、道路騒音では高い環境基準達成率を維持しています。
環境基準を達成していない項目については広域的な課題・自然由来の影響となっています。
大阪国際空港の着陸ルート直下に位置していることから、航空機騒音は達成率が低い状況が続いています。



環境審議会評価

- ・代表指標である「環境基準達成状況」では、航空機騒音を除いて、高い環境基準達成率を維持しています。航空機騒音については、引き続き、常時監視業務を行うとともに、騒音低減に向けて関係機関へ働きかける必要があります。
- ・空港周辺地域については、例えば農業用地の整備をすること等で緑地の持つ遮音効果を利用するなど、環境改善に向けた取り組みや、地域の特性を生かした公園等地域の活性化に向けた取り組み推進に期待します。
- ・市民や市の取り組みだけでは改善が困難な指標については、より取り組みの進ちよくがわかるよう検討が必要です。

市の考え方

- ・引き続き高い環境基準達成率を維持できるように、必要な措置を継続するとともに、市内の公害状況を調査し、ホームページ等でわかりやすく評価・公表していきます。航空機騒音については、低騒音型機の導入を要請するなど、引き続き関係機関と連携しながら騒音対策を進めます。
- ・空港周辺地域では、緩衝緑地の整備を進めてきましたが、加えて最近では、航空機の着陸を間近で鑑賞できるスポットとして「豊中つばさ公園『ma-zika』」の整備を進めるとともに、走井地区内緩衝緑地では、草花の育成や同地の開放イベントを実施しています。引き続き地域の環境改善及び活性化に向けた取り組みに努めます。
- ・指標について、改善は進んでいるものの市民や市の取り組みだけでは達成が困難な項目があり、取り組みの進ちよくがわかりにくい状況が続いています。指標や目標のあり方など、次期計画策定に向けて検討していきます。

市民・事業者みんなで取り組もう！

家庭でできること

環境交流センターを利用しよう

環境交流センターは、誰もが集える交流空間です。

環境イベントの情報や交流テーブル、キッズスペースもあるので、近くに行ったときや交流したいときはぜひ利用しましょう。



詳しくはこちら

再エネを利用しよう

日々の生活で使うエネルギーを再生可能エネルギー由来にすることで、温室効果ガスの排出量を減らすことができます。

屋根に太陽光パネルを設置する、再エネ電力プランを利用するなどいろいろな方法があります。



SAFの利用に貢献しよう

豊中市では、使用済みの廃食油を集めてSAFに作りかえる取組を推進しています。

家庭から出る「使用済み食用油」を捨てるのではなく有効活用しませんか。

※SAFとは持続可能な航空燃料のことで従来の燃料よりも環境に優しい燃料です。



詳しくはこちら

身近な生きものに親しもう

「生物多様性くらしナビ まいのちosaka」では楽しみながら生物多様性について、分かりやすく知ることができます。

生物多様性について学んでみましょう！



詳しくはこちら



クールスポットでひと涼みしよう

豊中市では市民のみなさまが暑さから逃れ休憩できる「クールスポット」を設置しています。

夏の暑い日、お出かけ途中で熱中症になりそうなときは、ぜひクールスポットをご利用ください。



詳しくはこちら

事業所でできること

市民公益活動支援センターを利用しよう

市民公益活動支援センターは市民・事業者・団体の公益活動をサポートする施設です。

社会貢献をお考えの方は、ぜひ市民公益活動支援センターにご相談ください。



詳しくはこちら

脱炭素経営に取り組もう

中小事業者にも脱炭素経営が求められているため、豊中市では中小事業者に向けたセミナーのアーカイブ配信を行っています。

脱炭素とは何か、どんなメリットがあるのか、何をしたらよいのか、今後の取組み方に悩んでいる事業者の方は是非ご覧ください。



詳しくはこちら

ごみ処理機設置補助を活用しよう

市内に事業所を有する事業者のみなさまに向けて、ごみ処理機の設置にかかる費用の一部補助を実施しています。



詳しくはこちら

花いっぱい大作戦に協力しよう



豊中市では花いっぱいのまちをめざし、花いっぱい大作戦を推進しています。

花を育てるサポーターや、活動を支えてくださるスポンサー等、花いっぱいのまちづくりにぜひご協力ください。



詳しくはこちら

化学物質の排出を抑制しよう

事業者からの化学物質の排出については、法律や条例で管理・抑制が義務付けられています。

きれいな水や空気を保つため、排出抑制に取り組みましょう。

